

請求の範囲

- [請求項1] 物体側の面から入射した光線を眼球側の面から出射させて所定の位置 A に収束させる眼鏡レンズにおいて、
- 前記物体側の面と前記眼球側の面とのうち少なくとも一方の面に基材凸部を複数有するレンズ基材と、
- 前記基材凸部を有する面を覆う被膜と、を備え、
- 前記基材凸部を有する側の眼鏡レンズの最表面にある被膜凸部の形状は、前記眼鏡レンズに入射した光線を、前記所定の位置 A よりも物体側寄りの位置 B に収束させる基材凸部近似形状である、眼鏡レンズ。
- [請求項2] 光線追跡計算により得られる、前記眼鏡レンズの前記物体側の面の所定範囲内に均等に入射して前記被膜を通過する多数の光線のうち、前記所定の位置 A 近傍を通過せず、且つ、前記物体側寄りの位置 B 近傍も通過しない迷光光線の本数は入射光線本数の 30% 以下である、請求項 1 に記載の眼鏡レンズ。
- [請求項3] 前記被膜の最表面形状に対する非点収差分布における前記被膜凸部の根元での非点収差の断面曲線が 0.20 mm 以下である、請求項 1 または 2 に記載の眼鏡レンズ。
- [請求項4] 前記被膜凸部形状に対して最適近似させた球面と、実際の被膜凸部形状との間のレンズ厚さ方向での差の絶対値の最大値が 0.1 μm 以下である、請求項 1～3 のいずれかに記載の眼鏡レンズ。
- [請求項5] 前記被膜凸部の突出距離 L_o と、前記基材凸部の突出距離 L_i との関係が以下の式 (1) を満たす、請求項 1～4 のいずれかに記載の眼鏡レンズ。
- $$0.6 \leq L_o / L_i \leq 1.5 \quad \cdots \text{式 (1)}$$